

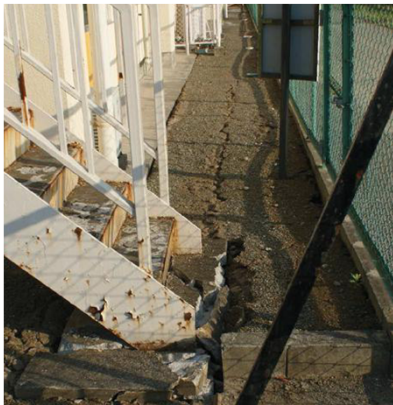
復興への歩み

熊本地震

第二明星学園からの報告

地震発生と初期対応

4月14日21時26分、震度7の地震発生。学園では施設利用者・グループホーム利用者合わせて50名程の方々は、夜勤者、当直者、さらに、非常呼集訓練を実施していたおかげでほとんどの職員が30分程度で学園に駆けつけ、暗闇の中、利用者1名にかすり傷はあったものの全員無事避難完了することができました。



敷地内にできた地割れ

すべてのライフラインが断たれた中、スプリンクラー用発電機が作動し、緊急時の生活用電気として一部切り換わるシステムだったので、若干の明かりと懐中電灯で建物内の毛布や防寒衣料、医薬品等を持ち出しました。

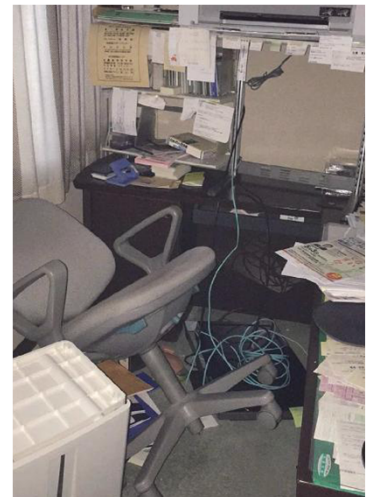
4月といえ夜間はまだ冷え込み、学園の車や職員の車に全員が分乗し、待機しておりました。建物内に入るタイミングを計っていましたが、その後も大きな余震が続き、なかなか判断がつかず、幸い学園から25分離れた所に当法人の田代西部福祉センターがあり、そこはほとんど被害がないことが確認できたので、夜間に全員が避難移動することができました。そして16日1時25分、2回目の震度7の熊本地震により震源地の益城町に隣接する当学園の建物7棟は甚大な被害を受け、数日後には被害状況の視察調査に来られた県の福祉課の方々と協議しながら、本館は建て替え、グループホーム1棟は大規模改修、1棟は一部改修、居住棟2棟は解体、倉庫棟は解体という判断になりました。



地震直後の事業所



建物内に入ることができなくなった。



熊本地震 第二明星学園からの報告

初期対応がスムーズにできた要因

施設開設以来、年1回夜間の非常呼集訓練(夜間10時以降に電話連絡網により学園まで急行する訓練。火災や地震、行方不明者捜索等を想定し、学園までの経路や持参品等を確認する)を実施していたため、迅速に行えたと思います。また、物資の調達はあらゆる通信手段を利用し、支援を呼びかけました。もちろん数日分の備蓄も役立ちました。



地域住民との連携と支援

地震直後から約3ヵ月間、倒壊や頻発する余震に自宅に帰ることもできない方や高齢者の方、在宅の障がい者の方々など、地域住民の方が多く時で40名程、学園の中庭に避難にいられていましたので、職員を配置し、住民の方々と協力しながら炊き出しやテント設営等の対応も行いました。



復興進捗状況

地震発生直後から県内外より多くのボランティアの方々が後片付けや、近隣で横行した空き巣強盗警備等、様々なご支援をいただき、現在、着々と復旧復興工事は進んでいます。工事用の大型重機を通す道路を確保するために土地を購入し、グループホーム裏の崩れた擁壁より50cm程移動した地面を戻し、グループホーム2棟の改修が完了。本館・居住棟2棟・倉庫棟の解体がほぼ終わりつつあります。

解体が終わり、さら地となった第二明星学園

本来であれば補助事業は一括入札となるのですが、県担当課に相談し、できることから分割して工事をさせていただくことで、少しでも早く利用者さんが震災以前の生活を取り戻すことが可能となるようにしました。改修工事が済んだグループホーム2棟は18名の利用者が戻って来られ、夜間支援ができる予定です。また、日本財団から早くに被害状況の視察調査もあり、応急仮設住宅の建設にご尽力いただき、倉庫棟の敷地に10名対応の建物を年度内に建設する予定です。



本館完成予定の平成30年3月まで、西部福祉センターに30名程、改修工事が終わったグループホーム2棟に18名程、応急仮設住宅10名程と分散することにより、現在より少しゆとりある生活空間を整える予定です。



改修されたグループホーム

熊本地震 第二明星学園からの報告



利用者の避難生活

地震直後より備蓄食料や近隣の施設や全国の友人知人から必要な物資が届けられ、生鮮食品以外は不足することはありませんでした。また、集団給食設備や大型洗濯機等の設備は、倒壊した本館から移設できたので通常の生活支援等は提供できています。さらに医療面に関しても、これまで受診していた医療機関のご協力をいただき、通院や往診により対応しています。

ただ、いかんせん生活空間はかなり狭く、ストレスを感じられてか、情緒不安定やトラブル、食欲不振、便秘等の症状が少なからずあります。生活空間を早々に改善したいのですが、なかなか進まず、ドライブや旅行、散歩、外食など、外出する機会をできるだけ多く設け、医療機関とも連携しながらできるだけストレスが溜まらないような支援を心がけています。

→全国から届いた支援物資。体育館一杯になりました。感謝！

復旧復興に向けての課題

- ①被災地は早急に復旧計画を立て、関係機関と連携し、臨機応変に実施する。
- ②施行業者不足や解体、建設工事費の高騰への対応
- ③復旧の原則(現状回復のみへの補助)では現在のニーズには応えられない。
- ④工事等はすでに始まり、支払い原資に不安があるため、復興予算の早期執行
- ⑤利用者や避難されてきた障がい児者の方々の支援はできたが、在宅で被災し、壊れた自宅や車中生活を余儀なくされた障がい児者やそのご家族の支援ができなかった。
- ⑥震災により生活環境が一変した職員の離職により人員不足が深刻であるが、欠員補充が困難である。



平成29年度中 完成予定

私の思い

愛着ある建物はガレキと化していきますが、40年近い年月の様々な思い出と培った障がい者福祉のノウハウは残っています。一日も早く震災前の生活を取り戻すため、職員一同一丸となって取り組んでまいりたいと思います。

最後に、全国各地から物心共のご支援に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

山崎雅之(熊本県・第二明星学園施設長)